



## 「ちひろさんの子どもたち」

谷川俊太郎×トラフ建築設計事務所

●2019年8月2日(金)～10月27日(日)

主催：ちひろ美術館  
 特別協賛：株式会社ジャクエツ  
 協賛：小野谷機工株式会社  
 協力：川口恵子、株式会社伊千呂、九州フィールドワーク研究会、株式会社講談社、三和化工株式会社、福永紙工株式会社  
 後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、(公社)日本図書館協会、杉並区教育委員会、西東京市教育委員会、練馬区

いわさきちひろ（1918～1974）の生誕100年にあたる2018年、東京・安曇野のふたつのちひろ美術館では、「Life」をテーマに、さまざまな分野で活躍する7組の作家がちひろとコラボレートした「Life展」を開催しました。ちひろの絵や人物像にそれぞれの作家の視点と表現からアプローチしたこの展覧会の取り組みは、今の時代にふさわしい、新しい“ちひろ”のイメージを開いていきました。

本展では、安曇野館で「Life展」を開催した詩人の谷川俊太郎と、トラフ建築設計事務所が、谷川の書き下ろしの詩のタイトルでもある「ちひろさんの子どもたち」をテーマに、東京館でコラボレートします。



図1 赤い帽子の男の子 1971年

## ちひろさんの子どもたち

ちひろさんの子どもたちは  
 赤んぼのようにまっさらで  
 大人よりいっしょけんめい考える  
 女の子はいつもすっぴん  
 男の子は戦争がきらい

ちひろさんの子どもたちは  
 手足のびのびいっぱい遊ぶ  
 昼間は本を読む 夜は宇宙を読む  
 友だちには子どもだけでなく  
 おじいさんやおばあさんもいる

ちひろさんの子どもたちは  
 悲しい時は堂々と泣く  
 怒っても悪口は言わない  
 うれしい時はみんなと笑う  
 花や小川や紋白蝶もいっしょに

谷川俊太郎 2017年



図2

どっかへいこうよ  
 いっしょにいこうよ  
 はしっていこうよ  
 ちきゅうのうえを！

図2 スケッチブックを持つ青い帽子の少女（部分）  
1971年

図3

とけてしまいそう  
 ほんとにうれしいとき  
 だれとでもなんとも  
 なかよくなって  
 おおきなおおきな  
 ひとつにとけこんでしまいそう

図3 花の精（部分） 1970年頃

## 子どもになれる詩人と画家

20歳のときに初めての詩集を発表して以来、詩人として長年第一線で活躍している谷川俊太郎。谷川は、大人に向けた現代詩と並行して、子どもも楽しめる詩も手がけてきました。ひらがなだけを使い日本語の音のおもしろさを伝える『ことばあそびうた』や『わらべうた』、子どもの目線から世界のあらゆるものごとを見つめた詩や、子どもの内面に深く迫る詩も発表しています。谷川の詩は、子どもたちに日本語の豊かさを伝え、親しみやすい身近なことばで哲学を語り、宇宙にまで広がる世界を見せてきました。

ちひろより13歳年下の谷川は、ちひろの生前からその絵を知っていましたが、子どもがかわいくて甘い感じを警戒していたといいます。当時の谷川は、和田誠や長新太、堀内誠一、瀬川康男等と絵本づくりに取り組み、詩人ならではのことばのセンスで、子どもの本の可能性を切り開いていました。

『なまえをつけて』（講談社）より 2018年

時を経て、2018年に谷川がちひろの子どもの絵にことばを寄せた初めての絵本『なまえをつけて』(図2・3)が刊行されました。谷川は年を重ねることを木の年輪のようにとらえ、自分の内に子どもの存在を見えています。「ちひろさんは絵で子どもになれる。僕はことばで子どもになれる」と、谷川はいいます。ページをめくるごとに、15人の子どもが登場するように構成されたこの絵本では、顔の部分をアップにして目の位置や大きさをそろえ、あえて絵の周囲をトリミングしています。絵本をひらくと、男の子も女の子も、あかちゃんも、絵のなかの子どもたちひとりひとりが、こちらを見つめて語りかけてきます。それぞれの子どもがなにを見て、なにを思い、どんな個性を持つのか——谷川はことばによって、子どもたちに新たないのちを吹き込みました。二人の個性は異なりますが、その詩と絵が組み合わさったとき、単体で味わうときはまた違う、豊かな世界が立ち上がります。

#### 子どもの「帽子」がつなぐ展覧会

ちひろのイメージから「子どものへや」をつくらうとしたトラフ建築設計事務所は、部屋のようなすが描かれている絵がほとんどないなか、ちひろの絵に帽子をかぶっている子どもが多いことを発見します。「帽子は子どもにとって、一番身近な家のように安心感を与えてくれるものなのかもしれない」との考えから、トラフは大きな麦わら帽子の形の「子どものへや」を設計しました。トラフが選んだちひろの帽子の子どもの絵から、谷川の新作詩「ぼうしさん」も生まれました。この帽子自身が心をもってことばを語る谷川の詩は、身近なものに愛着をもって友だちのように感じる、子どもの感覚そのものです。

帽子は本展をつなぐモチーフとなり、子どもたちを展示空間へと誘います。会期中、大きな帽子のなかでは、ちひろと谷川の世界を体験できるワークショップや絵本の時間も行います。子どもに楽しく参加してもらうことはもちろん、大人の内なる子どもも目覚める展覧会です。

(上島史子)



図6 トラフ建築設計事務所 空気器

## ぼうしさん

いすのうえにわすれられて  
ぼうしはすこしさびしくなりました  
あたまのうえにいるほうがすきなのです  
ときどきそらとおしゃべりできるから

あたまがおしえてくれるので  
ぼうしはなんでもしています  
6たす6が12だということも  
12が1ねんのつぎのかずだということも

ぼうしはかぶってくれるようちゃんがすきですが  
ほんとはそらとぶえんばんになって  
まいごのながれぼしをさがしたいのです  
ようちゃんがまってくれるかしんぱいですが

あ ようちゃんがおでかけです  
いすのうえからあたまのうえへ  
ぼうしはなんどもひっこしします  
かぜにとばされないでね ぼうしさん

谷川俊太郎 2019年



図4 海を見つめる少女 1973年



図5 月を見る少年 1970年

### 谷川俊太郎 (1931~)

東京生まれ。1952年第一詩集『二十億光年の孤独』を刊行。1962年「月火水木金土日の歌」で第四回日本レコード大賞作詞賞、1975年『マザー・グースのうた』で日本翻訳文化賞、1982年『日々地図』で第34回読売文学賞、1993年『世間知らず』で第1回萩原朔太郎賞、2010年『トロムソロジー』で第1回鮎川信夫賞など、受賞・著書多数。詩作のほか、絵本、エッセイ、翻訳、脚本、作詞など幅広く作品を発表。近年では、詩を釣る iPhone アプリ『谷川』や、郵便で詩を送る『ポエメール』など、詩の可能性を広げる新たな試みにも挑戦している。

### トラフ建築設計事務所

鈴野浩一と禿真哉により2004年に設立。建築の設計をはじめ、インテリア、展覧会の会場構成、プロダクトデザイン、空間インスタレーションやムービー制作への参加など多岐に渡り、建築的な思考をベースに取り組んでいる。「光の織機 (Canon Milano Salone 2011)」は、会期中の最も優れた展示としてエリートデザインアワード最優秀賞に選ばれた。2015年「空気の器」が、モントリオール美術館において、永久コレクションに認定。



図7 トラフ建築設計事務所 子どものへや 2018年

撮影：三嶋義秀 安曇野ちひろ美術館にて

## 6月29日(土) ショーン・タンの世界展 関連イベント 対談 岸本佐知子×柴田元幸

ショーン・タンの作品を翻訳している岸本佐知子さんと、かつてタンと対談をしたこともある東京大学名誉教授の柴田元幸さんによる対談を行いました。未翻訳作品の朗読も交え、タンの作品の魅力や翻訳について語っていただきました。その一部を以下に紹介します。(原島恵)

## ショーン・タンのファンタジー

柴田(以下、柴): 今回の展覧会では、タンの再現アトリエがあって、そこにヒエロニムス・ボスの絵が貼ってあります。彼はいろんなアーティストから影響を受けていると思うけれど、『アライバル』に出てくるあの不思議な生き物なんかは、ボスからの影響という感じがします。でも、ボスみたいにグロテスクではないんですよね。

岸本(以下、岸): どの辺に惹かれてるんでしょうかね。はじっこに描いてある人物は何をしているんだろうと見てみると、そこから物語が始まっていくようなところが似ているように思います。

柴: それから、タンは中国系のオーストラリア人じゃないですか。彼が出自をどこまで意識しているのかわからないけれど、最近のアメリカ文学、とくにSFで活躍している中国系の作家たちとの共通点も感じます。『紙の動物園』を書いたケン・リュウとか、テッド・チャンとか、あと台湾の人だけ『歩道橋の魔術師』の呉明益とか。彼らは、奇想天外な想像の無意識のなかに降りていくんだけど、その先はそんなにドロドロした世界ではなくてさわやかなんですよね。

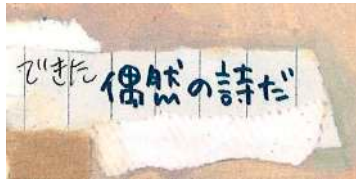
岸: 確かに。郝景芳の「折りたたみ北京」は、北京の人口が増えすぎたために空間を三つに分け、ルービック・キューブみたいに回転させて交代で地表に暮らすという物語なんですけれど、彼女の作品もリアリティはあるけれど、たしかにドロドロしていないんですよね。

柴: まあ、中国系といってまとめてしまうつもりはないけれど、タンのファンタジーは、例えばレイ・ブラッドベリみたいにバランスのとれたもうひとつの世界というよりも、現実をさわやかに歪めたかたちで映し出した奇想天外な世界が現れているように思います。

## ショーン・タンの細部へのこだわり

岸: 「エリック」は、不思議な交換留学生が家にやってくる物語です。最後に、留学生のエリックがメッセージを残していくのですが、これ絶対、柴田さんの書き文字が良いと言って、書いていただいたんですよね。同じく『遠い町から来た話』のなかの「遠くに降る雨」では、私の字も含めて、いろいろな人の書き文字

がデザインされているんです。これはたくさんの方が書いた詩がいつの間にか寄り集まって大きな玉になるという物語なので、この書き文字は本当に効果がありました。このなかで「偶然の詩だ」というのが決め台詞なんですけれど……。



『遠い町から来た話』(河出書房新社) 2011年より

柴: これ、僕の字だ!

岸: そう、柴田フォント(笑)。タンの遊びにつきあって、こっちもふだんはやらないような面白いことができました。

柴: タンの細部へのこだわりはかなりのものですよ。

岸: はい。彼はいつもページのはじっこで面白いことをやっているんです。例えば『ロスト・シング』でも、主人公が新聞広告を見つける場面で、背景の記事のなかに「Red Tape」を売りますと書いてあって。「お役所仕事」という意味なんですけれど、私は「鼻をくくる木」と訳しました。『遠い町から来た話』のなかの「記憶喪失装置」も細部に凝っています。これはディストピアの物語で、政府が変な機械で人々の記憶を都合よく消しちゃうんです。背景には「政府自身による政府の汚職の捜査に先立って“公式否定省”が声明を発表し、汚職の事実は見つからないだろうとの見解を示した」というような記事が書いてあって、細かい部分もすべて訳しました。

柴: これまるっきりどこかの政権について書いてあるようで、リアリズムじゃないですか(笑)。



## ショーン・タンとエドワード・ゴリー

柴: こういう凝りようは、僕が訳しているエドワード・ゴリーにも通じるものがあります。

岸: ゴリーの『不幸な子供』に小さい黒い変な生き物が出てきますよね。

柴: はい。すべてのページにひそんでいて、『アライバル』で主人公と一緒にいる変な生き物をはじめ、タンの場合は一見不思議なものでも、納得がいくような枠組みのなかにきちんと収めるんですけど、ゴリーは全く収める気がないんですよ。

岸: タンの『夏のルール』は、兄弟のひ

と夏の冒険を描いた絵本ですが、どのページにもよく見るとカラスがいるんですよ。これは、遠いところから観察してなりゆきをジャッジしているような存在だと、タン本人が言っていました。

柴: ゴリーの絵本に出てくる不気味な生き物は、ジャッジしているというよりも、この世界を不吉に染めている感じがするね。ゴリーの『うろんな客』は、「エリック」にちょっと似ています。どちらも、ある日突然、不思議な訪問客がやってくる話で。エリックもなかなか不思議なことをするんだけど、うろんな客もいたずらばかりして。

岸: エリックよりもだいたいぶ惑感を感じてすけれどね(笑)。

柴: そう。エリックは「ありがとうとても楽しかったです」って最後は帰っちゃうんだけど、うろんな客は17年経ってもまだいるんですよ。

岸: この翻訳、改めて読み直して、すごいな、これは自分には絶対できないなと思いました。短歌形式にして最後のひとことを四文字熟語にしたのはどうしてですか?

柴: 短歌の語尾がよくわからないから、それを悟られないように四文字熟語にしたんだよ(笑)。

岸: 短歌形式で、原文の意味が零れ落ちていないようにするのは大変ですね。

でも、最後だけ急に、つけ義春ですよ?

柴: そうそう。「今日に至ってもいっこうになくなる気配はないのです。」っていうところ。「李さん一家」の「実はまだ二階にいるのです」だったっけ?あれですよ(笑)。最後まで短歌形式を通すと型にはまりすぎてしまうと思って。

## お互いの翻訳について

岸: 柴田さんの翻訳は心・技・体すべてが超人的だという感じがします。

柴: 僕も岸本さんの翻訳でうらやましいと思うところは大きいあって。誰かが僕の訳したものを「すごくおもしろかった、でも、できれば岸本佐知子に訳して欲しかった」と書いていて(笑)。

岸: 逆もありますよ。『エドウィン・マルハウス』は、なんで柴田元幸の訳じゃないんだってネットに書かれました。

柴: でもそのコメントの言わんとするところはわかりますよ。岸本さんが訳すものは、僕が訳すものより常にちょっとずつ過激なんだよ。同じブライアン・エヴンソンを訳しているけれど、岸本さんが訳す作品はすごく暴力的なものだったり。お互いに反応する部分の共通点と相違点がありますよね。ショーン・タンとエドワード・ゴリーもそうだと思う。

## 松本善明さん ご逝去

去る6月24日、松本善明さんが93歳で  
ご逝去されました。

1974年8月8日、いわさきちひろが55  
歳でこの世を去ったその翌々日の朝、善  
明さんは、夫として妻の死の悲しみのな  
かにあって、残されたちひろの作品につ  
いて、「人々が望むのであれば、ささや  
かであっても人類の遺産として位置づけ  
たい」と息子夫妻に語りました。これが  
今日のちひろ美術館の出発点となりまし  
た。美術館建設の呼びかけが始まり、全  
国から、たくさんの方の期待や励ましの手紙  
とともに寄付が寄せられました。そう  
した寄付については、お金を集めるとい

うことではなく人の心が集まること、い  
ただいた寄付の分だけその責任も重い、  
と語りました。1976年の財団設立、77年  
の美術館開館以降は、長く理事、評議員  
としてその活動を支えられました。

「ぜんめいさん」の愛称で親しまれ、  
永年在職の衆議院議員として、国会で不  
正を厳しく追及する姿は新聞やテレビで  
広く知られるところですが、同時に、ど  
んなに困難なときにも希望を語り、明る  
く豪快に「あはっは」と笑う姿を、そ  
の人柄を知る多くの人たちが語ります。

善明さんのご冥福を、心から、お祈り  
いたします。 ちひろ美術館



在りし日の松本善明さん

## ひとこと ふたこと みこと



### 3月27日 (水)

0歳8カ月の娘のファースト美術  
館です。すやすや寝ていました  
が、図書室では画集を見せてあげ  
ました。ちひろさん絵本で子育て  
したいと思います。(31歳ママ)

### 4月11日 (木)

ちひろさんのお庭で季節の草花に  
会えるのもここへ来る楽しみのひ  
とつです。今日はタチツボスミレ  
がたくさん咲いていました。先月  
九州への旅で、たくさんさんのレンゲ  
を見ました。ちひろさんがこちら  
で暮らしていらした頃には練馬で  
もレンゲを見ることができたのだ  
ろうと思います。夏には友人たち  
と安曇野行きの話が持ち上がって  
います。久しぶりにあの広い公園  
を散歩できるといいなあと思って  
います。(和光市 栗原真知子)

### 5月2日 (木)

一度は来てみたいとずっと思っ  
ていた憧れのちひろ美術館。やっ  
ぱり来てみてよかった！この「ひ  
とことふたことみこと」にもびっ  
くりしました。こんなに見学者の  
感想文が大事にされている美術館  
は初めてです。「1」を見ると昭  
和58年のものでした。なんと私が  
結婚した年。それから36年。子育  
てをし、仕事をし、親を見送り  
……。その間ずっと我が家にはち  
ひろさんの絵を飾ってきました  
(カレンダーを切り取ったものを、  
季節ごとに取り替えながら、額に  
入れて)。美術館の歴史と自分の  
歩んできた道のりを重ね感慨深い  
です。(神戸から 森久美子)  
[ショーン・タンの世界展 感想ノートより]  
「ショーン・タンの世界展」が日

本で開かれることに、大きなよろ  
こびと感謝を感じています。『夏  
のルール』、『アライバル』の本で  
あなたを知り、それ以来いつも心  
の片隅に存在しています。非日常  
のなかの日常を、こうしてのぞき  
見ることができて、とてもうれし  
いです。この夏の間は何度か訪れ  
たいと思っています。机の新作ド  
ローイングが増えていくのを楽し  
みにしています。

### 5月29日 (水)

想像力と創造力が合わさり、さら  
に作品自体になにか疑問を持たせ  
る作品群が大好きです。もしかし  
たら、ショーン・タンが作り出  
す世界やキャラクターは、実際に  
存在していて、彼にだけ見えてい  
るのかも、と思わずにはいられま  
せん。(文峰)

## 美術館 日記

### 4月20日 (土) ☀

展示関連ワークショップ「布のコ  
サージュを作ろう」を開催。サテン  
やオーガンジーなどを使い、色と  
りどりのバラのコサージュが完成。

### 4月29日 (月・祝) ☀/☁

「ちひろのキッズファッション」  
展示関連のドレスコード特典「な  
りきり！絵のなかの装い」に参加  
の小学生4名が、お母さんたち手  
づくりの帽子をかぶり、小さな花  
束を手に入館。ケイト・グリーナ  
ウェイの「花束を運ぶ子どもたち」  
の絵から抜け出したような愛らし  
い姿に、受付スタッフだけでなく  
お客さまからも感嘆の声があがる。



### 5月11日 (土) ☀

本日より「ちひろが描いた日本の  
児童文学」と企画展「ショーン・  
タンの世界展」がスタート。日本  
初となるショーン・タンの大規模  
な個展開催に、普段より男性のお  
客さまも多いよう。緻密な描写の  
作品が並び展示室2では、たくさ  
んの方が作品鑑賞に集中、静寂の  
なかに熱気が感じられる独特な空  
間が広がる。

### 5月24日 (金) ☀

早期5時からのJ-WAVE「ZAPPA」  
にて「ショーン・タンの世界展」  
が紹介される。21日放送の同局  
「GOOD NEIGHBORS」に引き続  
いての展示紹介、多くの方に興味  
を持っていただけたらうれしい。

### 5月26日 (日) ☀

まだ5月なのに、2日連続の真夏日、  
本日の最高気温は34℃。日差しは

強いが、風はさわやかな快晴の午後、  
テラスでは、子ども連れのお客さ  
まが笑い声あふれるティータイム。

### 6月17日 (月) ☀/☁

5月の暑さと6月上旬の雨の少な  
さで元気のなかったちひろの庭の  
あじさい。まとまった雨のおかげで  
元気を取り戻し、鮮やかに色づいた。



### 6月20日 (木) ☀/☁

図書室で自由に参加できる「ショ  
ーン・タンの世界展」関連企画「ど  
こにもいない生き物を描こう！」。  
毎日増えていく色鉛筆の独創的な  
生き物たちの絵を、館内見回りの  
スタッフも楽しみにしている。

●次回展示予定

2019年11月1日(金)～2020年1月31日(金)

ふたりの女の物語 都とちひろ

写真を始めた28歳のときから、母の旧姓名を作家名として名乗ってきた写真家・石内都。石内は、「いわさきちひろ」の人生を知るにつれて、2歳しか年の違わない自分の母親「藤倉都」との重なりに気づきました。本展では石内の視点を通して、同じ時代の空気を吸って生きたふたりの女の物語が語られます。母の身体と肌身につけていた遺品を撮影したシリーズ「Mother's」とともに、石内がちひろの遺品を新たに撮り下ろしたシリーズも展示します。



石内都 「Mother's #3」  
2000年 東京都写真美術館蔵  
© Ishiuchi Miyako



いわさきちひろ  
自画像(30歳頃) 1940年代後半

ちひろ美術館・東京イベント予定 [chihiro.jp](http://chihiro.jp) TEL.03-3995-0612

各イベントの予約・お問合わせは、ちひろ美術館・東京へ。イベント参加費のほか、別途入館料が必要です(高校生以下は入館無料)。  
※イベント申し込みは、先着順です。詳細・最新情報はホームページからもご覧いただけます。

〈展覧会関連イベント〉

●トラフによるアーティストトーク

- 日 時：8月3日(土) 15:30～17:00
- 講 師：鈴野浩一(トラフ建築設計事務所)
- 定 員：60名 7月3日(水)受付開始
- 参加費：600円(別途入館料)



●ワークショップ 「空気の器」に絵を描こう

- 水彩絵の具の「にじみ」で模様をつけて、オリジナルの空気の器をつくりまわす。
- 日 時：8月31日(土) 10:30～11:30／12:30～
  - 定 員：各回8名 当日先着順
  - 対 象：小学生以上 ○参加費：500円(別途入館料)

●谷川俊太郎×谷川賢作コンサート

- 日 時：9月8日(日) 13:00～14:30
  - 定 員：300名 8月8日(木)受付開始
  - 対 象：小学生以上(未就学児の入場も可)
  - 参加費：大人1000円、高校生500円、中学生以下無料
  - 場 所：練馬区立下石神井小学校 体育館
- 文化庁 平成31年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

●ワークショップ

「ちひろとコラボレーション」[谷川さんとコラボレーション]

- 期 間：8月2日(金)～10月27日(日)

●帽子のなかの絵本のじかん

- 第2・4土曜日 11:00～11:30
- 協力：ねりま子どもと本ネットワーク

●松本猛ギャラリートーク

- 日 時：8月25日(日) 15:30～
- 講 師：松本猛  
(ちひろ美術館常任顧問)

●ギャラリートーク

- 毎月第1・3土曜日 14:00～

○敬老の日 9/16(月・祝)

当日は、65歳以上の方は無料でご入館いただけます。

文化庁 平成31年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

●ちひろの水彩技法ワークショップ にじみの缶バッジづくり

- 日 時：8月5日(月)～8月7日(水) 10:30～15:00
- 対 象：5歳以上 当日先着順

●子どもギャラリートーク

- 日 時：8月19日(月) 11:00～14:00～
- 対 象：小中学生 参加自由

●わらべうたあそび

- 日 時：9月7日(土) 11:00～11:40
- 講 師：服部雅子(西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)
- 対 象：0～2歳児と保護者 8月7日(水)受付開始

●コンサート「音とにじむ」

- 日 時：9月28日(土) 15:00～
- 演 奏：mica bando ほか ○参加費：大人500円(別途入館料)
- 対 象：未就学児入場可 8月28日(水)受付開始

●親業講演会

- 日 時：10月19日(土) 10:30～12:30
- 講 師：田中満智子(親業訓練協会インストラクター)
- 対 象：大人(未就学児同伴可) 9月19日受付開始

●8月8日(木) ちひろ忌

今年の8月8日は、いわさきちひろがこの世を去って45回目の命日。この日は特別にどなたも無料でご入館いただけます。ちひろを偲び、彼女が生涯願った世界中の子どもたちの平和と幸せを、ご来館のみなさまとわかちあう一日とします。

- 11:00～11:40 帽子のなかのおはなしの会 参加自由
- 14:00～15:40 映画「いわさきちひろ27歳の旅立ち」上映会 7月8日(月)受付開始

●支援会員の日・活動報告会

- 8月8日にご来館される支援会員の方に、当日ご利用できる絵本カフェのドリンク券をさしあげます。受付にて支援会員証をご提示ください。
- 16:00～17:00 2018年度活動報告会・交流会 7月8日(月)受付開始

●「支援会員制度」クレジット決済による入会が可能となりました

ちひろ美術館の充実した活動を支えてくださる個人の方の寄付制度「支援会員制度」に、このたび新しく「クレジット決済による入会」が可能となりました。制度の詳細は、ホームページにてご覧いただけます。 <https://chihiro.jp/foundation/donation/>

CONTENTS 〈展示紹介〉…「ちひろさんの子どもたち」谷川俊太郎×トラフ建築設計事務所…②③

〈活動報告〉…対談「ション・タンの世界を語る」岸本佐知子×柴田元幸…④  
松本善明さん ご逝去／ひとことふたことみこと／美術館日記…⑤

美術館だより No.206 2019年7月12日発行